

港区教育委員会教育長賞

水と環境 国の枠を越えて

お台場学園港陽小学校 六年 清水美桜

水は、自在に形を変えて、常に私たちと共にあります。光を受けて、サラサラ流れる水ですが、私たちがいい加減に扱うと、恵みをもたらしてくれるはずの水は姿を変えます。

今の私たちの生活は、水道の蛇口をひねれば、すぐに水が出てきます。当たり前なので、水を使うたびに感謝の気持ちを持つこともないのではないのでしょうか。

しかし、昔の人たちは、水を得るために大変な努力を重ねてきました。日本の山は険しく、川は短く急なので、雨が降っても一気に海へ流れてしまうため貯えておくことが難しかったです。そこで、治水をし、水田を作り、上流には森林を作り、水が一気に流れてしまわず、土にしみこむよう工夫をしてきました。知恵と努力を重ね自然を尊ぶ気持ちながら共に生きてきたのです。

その後、社会の発展と共に、利益や便利さを追い求め、堤防やダムを造るようになりました。ダムの水は、私たちの生活用水や工業用水、発電などにも使われ、暮らしは大変便利になり、明るく豊かになっていったのです。発明や進歩を追い求める気持ちは、私たちの宿命のようなものだと思うのです。けれど、そのための代償がどんなものかを理解する必要があります。

高度成長期の公害病もそうです。工業廃水や大気汚染となって、私たち人間のこと自然に影響し、私たちに帰ってきたのです。激しい痛みや苦しみの中、亡くなった人が大勢いたのです。六十年たった今も、その後遺症で苦しんでいる人たちがいます。どんな時も、目先にあるものに目を奪われて、大切なものを失わないように、長い目でモノを見る姿勢が必要だと思います。

地球は、恵まれた惑星です。太陽の光を受け、雨を降らせます。人間や動物、虫がいて、緑があつて、土がある。そして水がある。一つ一つのものは、一つ一つ切り離して考えることができません。それは、地球という惑星の中で、全ての命がつながって、奇跡的な循環をしているからです。

今、環境問題は、国の枠を越えて話し合われています。国単位ではなく、国々が協力して行くことが必要だからです。国々は、地球の中でつながっていて、一つの大きな丸の一部なのです。私も、大きな丸の中の小さな点かな、と思います。

だから、まず自分にできる事からやっついこうと思います。リユース・リデュース・リサイクルです。一人一人が心掛けていけば大きな成果が出るはずですよ。

最後に、未来の人たちも、安全でおいしい水化飲めるように、私たちは環境を守っていかなくてはならないのです。